

**平成30年度大学教育再生戦略推進費
「課題解決型高度医療人材養成プログラム」
申請書**

【様式1】

事業の構想等

テーマ	テーマ②：医療チームによる災害支援領域
申請担当大学名 (連携大学名)	新潟大学
事業名 (全角20字以内)	実践的災害医療ロジスティクス専門家の養成

1. 事業の構想 ※事業の全体像を示した資料(ポンチ絵A4横1枚)を末尾に添付すること。

(1) 事業の全体構想

①事業の概要等

<p>〈テーマに関する課題〉 災害医療において「発災超急性期から復興期まで」「多職種連携」の重要性が認識され、平成26年度文部科学省補助事業において災害医療教育モデルプログラムが開始された。新潟大学においても、全国より多くの履修生が履修し「災害における医療の質の向上と組織間マネジメント」に精通する高度災害医療人材が多職種領域に輩出されている。一方で、近年の東日本大震災・熊本地震の経験から、これら災害医療支援の第一線での活動を土台から支える人的・物的供給体制を確立するための災害医療ロジスティクス(後方支援・業務調整)の重要性が認識されて来た。これを背景に各職種団体・学会などにおいて災害医療ロジスティクスの専門家認定制度が始まるうとしている。しかしながら、各認定制度と整合性を持って災害医療ロジスティクスを組織横断的かつ系統的に学習する機会は今現在わが国では一切提供されていない。災害医療ロジスティクスが第一線活動の成否を握ると認識された現在、各職域の災害医療認定制度に求められる学習内容を包含し、各専門職域の特殊性と組織間連携を理解し、災害全時相に対応できる「実践的災害医療ロジスティクス専門家の養成」を系統的に実施する教育プログラムの確立と全国への普及は喫緊の課題である。</p> <p>〈事業の概要〉(400字以内厳守) 本プログラムは、新潟大学医学部災害医療教育センター、災害・復興科学研究所等の新潟大学組織を中心に、新潟県、新潟薬科大学、新潟医療福祉大学、日本災害医学会、国立病院機構災害医療センター、兵庫県災害医療センター、日本赤十字社医療センターほか全国の組織および、各職域災害認定制度の担当者等と広く連携・協力して実施する。本事業では「医師」「歯科医師」「薬剤師」「看護師」ほか災害医療関連多職種を対象とし、厚生労働省指針で最重要課題と位置付ける「心のケア」「生活不活発病の予防」「口腔ケア」を中心に、災害医療活動を支える災害医療ロジスティクス専門家養成のプログラムを履修証明プログラムおよび大学院修士課程で実施する。各職域の災害医療ロジスティクス資格取得制度と整合性のあるプログラムとして個別の資格取得も支援し、リーダーとなる実践的な災害医療ロジスティクス専門家を養成するプログラムの全国普及を目指す。</p>
--

②大学・研究科等の教育理念・使命(ミッション)・人材養成目的との関係

<p>本学の使命(ミッション)は「地域の行政、企業、教育・医療機関等との連携による地域・社会の課題解決のための研究・人材育成」である。本事業は災害時の国民の生命と健康を守るために課題となっている「災害全時相において職種横断的な人的・物的資源の調整を図る災害医療ロジスティクス専門家」の育成において本学の使命を遂行し、本学の教育理念「医学を通じて人類の幸福に貢献する」を実現するものである。</p>
--

③新規性・独創性

新潟大学では、医学部災害医療教育センターにおいて、既存事業として平成26年度採択の高度医療人材養成プログラム（中間評価A評価）の実施により、日本の災害医療教育をリードする大学として認められる実績と経験を積み上げてきた。この実績と経験を土台として、今回新たに以下の新規事業を実施する。

1) 災害医療ロジスティクス専門家育成のための系統的プログラム

日本災害医学会において災害医療ロジスティクス専門家制度が開始されるにあたり、現在日本において実施されていない履修証明プログラム・大学院社会人修士課程のキャリアパスと連動した全国初の「災害医療ロジスティクス」に関する系統的なプログラムを初めて実施する。さらに、以下2) 3) の施策により本事業が全国に展開し、モデル事業となる仕組みを構築する。

2) e-learningシステムを活用し、全国どこでも学べる学習環境の提供

平成26年度から実施している高度災害医療人材養成プログラムで導入し、文部科学省UDMA事業、厚生労働省DMAT隊員養成研修のほか、様々な災害医療教育においてもコンテンツを提供・活用し実績のある本学e-learningシステムを活用し、在宅における災害医療ロジスティクスプログラムの受講・試験・質問等の双方向学習により全国どこにおいても学べる学習環境を提供。

3) e-learningコンテンツのライブラリ化による全国医療機関への提供

サーバーの強化により、「災害医療ロジスティクス」プログラムの一部をライブラリ化し、全国の医療機関における災害医療教育へ提供。コンテンツの共有により効率的に全国へ統一した教育内容の普及を実現。

4) 「心のケア」「生活不活発病の予防」「口腔ケア」を実施する災害医療ロジスティクス専門家の育成

災害急性期のDMAT活動においては、ロジスティクスは厚生労働省の施策として強化されつつある一方で、災害直接死亡よりも多数を占める「災害関連死亡・災害関連健康被害」で最重要課題となる「心のケア」「生活不活発病予防」「口腔ケア」の災害医療ロジスティクス教育プログラムは確立されていない。現在最も求められる災害医療人材像の一つである、この最優先課題に各領域の専門家が実際に現場活動できるための災害医療ロジスティクスに精通した人材育成は全国初の試みである。具体的には「災害医療ロジスティクス専門家コース」の共通科目を土台とし、サブスペシャリティとして「心のケア」「生活不活発病」「口腔ケア」「看護・保健」「災害薬事」を選択できる構造として、共通科目の学習と履修生の専門職域を活かしたコース設定とした。さらに、専門領域をクロスオーバーした履修も可能とする。

5) 学会と連動した教育活動

平成26年度より開始している継続事業の過程で、日本災害医学会の様々な教育プログラムと新潟大学医学部災害医療教育センター事業の連携・連動が確立した。現在日本災害医学会のホームページ、Webの構築および、災害医療教育ポータルサイトD-PORTの運営などの学会事業は新潟大学と共通のプラットフォームを用いて実施している。日本災害医学会の最新の知見と活動、人材育成方針とリアルタイムに連動して内容の改正、広報の実施などが可能な体制が構築されているのは、新潟大学の特色である。更に、各職域・学会の専門家認定制度の要件と整合性を持たせ、履修証明プログラム・大学院はもとより、単独の受講においても資格取得の要件となるコンテンツを提供し、学習者のキャリアパスを支援する。

④達成目標・評価指標

1) 履修証明プログラム

本プログラムでは「災害医療ロジスティクス専門家コース」を土台とし、「心のケア」「生活不活発病」「口腔ケア」「看護・保健」「災害薬事」の5つのサブスペシャリティーが選択できる構造としている。

「到達目標」

・平成31年10月生より履修証明プログラム「災害医療ロジスティクス専門家コース」（5サブスペシャリティー全体）を開始し、最低履修期間（2年間 平成33年9月末日）修了時に修了者8名を目標とする。平成32年4月以降は半期毎に募集を実施し、年間あたり平均14名の修了者を目標設定する。

2) 社会人大学院修士課程

「到達目標」

平成31年4月生より社会人修士課程（医科学）における災害医療ロジスティクスを研究テーマとした大学院生を受け入れ、各学年平均年間1名の医学修士の育成を目指す。

3) プロバイダーコース

・災害医療ロジスティクスプログラムのライブラリ公開（補助最終年度平成34年度末の段階で40コンテンツを到達目標）および、資格取得に関連した各種セミナー等の受講生年間100名（平成30年度50名）を目指す。特に、今回主たる対象となる「医師」「歯科医師」「看護師」「薬剤師」については、70名以上を目標と設定するが、各セミナーの目的にあった災害医療関連多職種は排除しない。

「評価指標」

上記に示した数値目標による達成率と同時に、提供されるプログラムの質的評価が重要である。プログラム実施前後にVisual Analog Scale (VAS)による満足度・達成度などの指標によるアンケート調査を実施。教育内容と履修生のニーズ、および学会専門家の意見との一致を常に検証し、本プログラムの妥当性を評価してゆく。

⑤キャリアパス教育・キャリア形成支援（男女共同参画、働きやすい職場環境、勤務継続・復帰支援等も含む。）

1) 履修証明プログラム・大学院医科学専攻修士課程（社会人入学制度）

本プログラムでは、学校教育法の定めによる履修証明プログラムとして学習プログラムを公開し、修了者に対して新潟大学より履修証明書（Certificate）を交付し、職業能力証明書としてキャリア形成に寄与する。また、さらに指導的立場を目標とする学習者に対しては大学院医科学専攻修士課程の受け入れを実施し、修了生には医学修士を与え災害医療領域における指導的・教育的職種への就業を支援する。

2) 就業を継続しながら学習できる環境整備

本プログラムの中で、履修証明プログラム基幹をなす部分はe-learningであり、一部の本学キャンパスなどで実施されるセミナーやシンポジウム以外は、履修生が通学することなく自宅において自由な時間に学習でき、さらに事前テスト、受講後テストによる単位認定や質問ができる双方向性学習環境を、e-learningの履修管理システムで実現する。大学院修士課程においても、社会人入学制度による受け入れとしている。大学院修士課程では、本学大学院による基礎講座の履修を含めて、実際の聴講の他にe-learning受講とレポートも可能とし、社会人の就労を継続しての研究活動を支援する。

3) 履修証明プログラムによるサブスペシャリティー制度

歯科医師、薬剤師、理学療法関連職種、認定心理士、精神科・リハビリ科医師などの専門職においても、サブスペシャリティーにおいて専門性に特化した災害医療ロジスティクスの教育機会が提供され、より実災害の活動に密接に関連したキャリア形成が可能なプログラム構成を実現する。

4) 災害医療認定制度の資格取得を支援するコンテンツ、セミナーの提供

プロバイダーコースにおいて受講証を交付すると同時に、各職域専門家認定制度の資格要件とセミナーの内容については学会・職域団体の認定制度委員会と調整、整合性をとり、各団体資格認定に活用できるようにキャリア支援を行う。

(2) 教育プログラム・コース → 【様式2】

2. 事業の実現可能性

(1) 事業の運営体制

①事業の実施体制

本事業は新潟大学学長のもと、新潟大学全学体制で実施する

(1) 新潟大学医学部災害医療教育センター（大学院医歯学系）：古くは関東大震災から、新潟地震、中越地震、中越沖地震と脈々と続く新潟大学の豊富な災害医療支援と受援の経験を基に平成25年度に設置された。平成26年度より課題解決型高度医療人材養成プログラムが開始し「発災～復興まで支援する災害医療人材の養成」のカリキュラムを実施。e-learningシステムの運用、全国規模のセミナー・シンポジウムの開催、国際協力機構（JICA）との提携事業実施（ASEAN諸国への災害医療教育プログラムの実施と普及）、日本災害医学会（旧日本集団災害医学会）との連携など災害医療教育の国立大学唯一の専門機関として活動している。本申請事業においては、実質的な実施主体を担う。平成30年度からはセンター長に中越地震以来地域の災害心のケアをリードする医学部長、精神科教授が着任し、本事業「心のケア」においても指導的役割を果たす。

(2) 新潟医療人育成センター（医歯学総合病院）：新潟県地域医療再生計画として平成26年度に新潟大学旭町キャンパスに設置された。災害医療教育に必要な研修設備、備品を備え、災害ロジスティクス教育に必要な各種セミナーやシンポジウムの実施が可能。

(3) 新潟大学災害・復興科学研究所（全学）：全国でも数少ない「災害を科学する」研究所で、災害メカニズムの研究、減災対策など「災害」をキーワードに組織横断的研究を実施している。医学部災害医療教育センターとも連携し、最新の研究知見を共有してプログラムに反映させる体制が整備されている。

(4) 新潟大学情報基盤センター（全学）：新潟大学における情報通信管理と指導を実施する。本事業におけるe-learningシステムの基盤整備、新潟大学のネットワークシステム管理を担当する。

②事業の評価体制

評価は原則として学内・学外の有識者により構成されている独立した「外部評価委員会」を設置し、各年度終了後に実施する。評価委員会委員長が、各委員からの評価票を取りまとめ、各項目を点数化した結果および意見を集約し、匿名化した上で本学に提出する方法を採用し、評価委員からの客観的かつ忌憚のない意見が集約できる体制を整備する。この評価結果を基に、学内において運営委員会を開催し、前年度修正箇所再評価と、次年度の事業計画の修正を行い、事業を改善・推進するPDCAサイクルを確立し、本事業の質の担保と発展を目指す。

③事業の連携体制（連携大学、自治体、地域医療機関、患者団体等との役割分担や連携のメリット等）

日本災害医学会、国立病院機構災害医療センター、同福島復興支援室、兵庫県災害医療センター、日本赤十字社医療センター、国立健康・栄養研究所、新潟薬科大学、新潟医療福祉大学、新潟県、新潟県医師会（第三者機関）：本プログラムの立案、実施、評価体制において、日本災害医学会事務局・各委員会と連携し、災害医療ロジスティクス専門家制度との整合を図る。制度認定の基準が本プログラムに反映され、またそのコンテンツがライブラリーとして公開されることにより、本事業の質の担保だけでなく、認定制度の基準の明確化にも寄与する。災害医療センター政策医療企画研究室（全体・心のケア）、日赤医療センター救命救急センター（全体）、国立健康・栄養研究所国際災害栄養研究室（災害保健）、および本学保健学科（災害看護）、本学歯学部・神奈川歯科大学災害医療歯科学研究センター（災害歯科）、新潟薬科大学（災害薬事）、新潟医療福祉大学（理学療法・災害看護）と連携し、具体的なコンテンツの制作、プログラム全体の構成、各専門職種のスブスペシャリティー領域における講師選定なども行い、全国標準となりえる質の担保を確保する。新潟県福祉保健部、新潟県医師会とも協力体制を確立し、本事業における避難所運営で重要な役割を果たす行政・医師会にも事業参画する連携体制が整備されている。また、事業の実施体制（担当者）は、「災害医学」「災害看護」「災害歯科学」「災害薬学」「災害リハビリテーション」の第一人者および、各団体の災害関連資格認定制度の担当者が参画し、本事業のプログラムと認定団体との連携が可能な体制を整備している

(2) 取組の継続・事業成果の普及に関する構想等

①取組の継続に関する構想

新潟大学の第三期中期計画の中に、新潟大学医学部災害医療教育センターを更に組織強化する災害医療みらいセンター構想が示されている。本事業は補助金年度終了後も新潟大学の強みである「災害医療教育の日本におけるリーダー」としての重要な事業と位置付け、自立的に継続実施する。

補助事業年度内に、サーバーシステムの強化と本事業に対応するためのソフトウェアの更新を実施、またe-learningシステムのコンテンツを履修証明プログラムの終了に必要な70時間（および、ライブラリー40時間）を作成。5年間で原資の多様化（学内資金、外部資金）による自立的資金割合を増加する。ライブラリーの使用について使用料金の徴収が可能となれば、平成35年4月以降のコンテンツの追加、修正の原資とする。これら事業計画のもと、本事業における履修証明プログラム・大学院医科学専攻修士課程を自立的に継続する。

②事業成果の普及に関する計画

1) Webによる発信：本事業のプログラム実施状況は、そのプログラムの募集や事業報告、様々なセミナー・シンポジウムなどの開催案内、申し込み、報告なども含め、新潟大学医学部災害医療教育センターのホームページにおいて継続的に発信を行う。平成26年度から実施している先行事業によりホームページおよび公式Facebookのフォロワー（1,400人強）が全国に存在し、高い発信力を有している。また、新潟大学医学部災害医療教育センターで管理運営している全国唯一の災害医療教育イベントポータルサイトD-PORTは、日本災害医学会の教育事業でも採用され連動していることから、D-PORTを通じての発信も同時に実施し、広く事業成果を広報するとともに、事業への参画を促す。

2) 全国規模のシンポジウムの開催と全国学会での広報：本事業年度内に、災害医療ロジスティクスに関する日本災害医学会および全国を対象とした会においてシンポジウム（ワークショップ）を開催もしくは参加し、積極的に本事業の内容を共有・発信する。

3) 災害医療ロジスティクス教育のライブラリー公開
全国の災害医療ロジスティクス教育で必要とされる講義内容（コンテンツ）をライブラリーとして公開し、e-learningでの聴講を可能とすることで、講義内容の一部を全国で共有し、災害医療ロジスティクス教育の標準モデルプログラムとしての定着・普及を目指す。

3. 年度別の計画

(1) 年度別の計画

30年度	<ul style="list-style-type: none">①9月医学部災害医療教育センターHPによる事業広報②9月-11月災害医療ロジスティクスコースのシラバス・授業項目の策定③9月-3月本コースに必要な教育設備の選定・購入・設置④9月-3月e-learningシステムの仕様変更 サーバー設営・システム導入⑤10月キックオフセミナー（講演会）開催⑥10月平成31年度4月生大学院募集要項策定 募集開始⑦11月外部評価委員の選定・委嘱⑧11月履修証明プログラムの学内申請手続き⑨11月-講師へのコンテンツ作成依頼開始⑩11月事務補佐員雇用⑪2月日本災害医学会BHELPコース開催⑫3月日本災害医学会PhDLSコース開催
------	---

31年度	<ul style="list-style-type: none"> ①4月専任教員（准教授1、助教1）配置 ②4月大学院社会人修士課程開始 ③4月（継続）講師へのコンテンツ作成依頼およびコンテンツのe-learning化 ④5月災害ロジスティクスの実践演習（EMIS） ⑤6月心理的応急処置（PFA）講習会開催 ⑥7月人道&緊急支援の国際基準トレーニング開催 ⑦9月災害リハビリテーション研修会開催 ⑧9月災害ロジスティクスの実践演習（避難所アセスメント） ⑨10月コンテンツのライブラリ活用のためのWeb設計とHP改定 ⑩10月履修証明プログラム「災害医療ロジスティクス専門家コース」開講 ⑪10月日本災害医学会PhDLS（災害薬事）コース開催 ⑫11月災害ロジスティクスの実践演習（災害歯科） ⑬11月災害ロジスティクスの実践演習（災害薬事） ⑭1月避難所における食と栄養の研修会開催 ⑮2月災害医療通信技能研修会（ベーシックコース）開催 ⑯3月日本災害医学会BHELPコース開催
32年度	<ul style="list-style-type: none"> ①4月（継続）講師へのコンテンツ作成依頼およびコンテンツのe-learning化 ②4月外部評価委員への評価依頼（平成30/31年度） ③5月災害ロジスティクスの実践演習（EMIS） ④6月心理的応急処置（PFA）講習会開催 ⑤7月人道&緊急支援の国際基準トレーニング開催 ⑥9月災害リハビリテーション研修会開催 ⑦9月災害ロジスティクスの実践演習（嚙下リハビリの体制整備） ⑧10月日本災害医学会PhDLS（災害薬事）コース開催 ⑨11月災害歯科ロジスティクス研修会開催 ⑩11月災害ロジスティクスの実践演習（SCU） ⑪12月災害薬事ロジスティクス研修会開催（物流と連携） ⑫1月避難所における食と栄養の研修会開催 ⑬2月災害医療通信技能研修会（アドバンスコース）開催 ⑭3月日本災害医学会BHELPコース開催
33年度	<ul style="list-style-type: none"> ①4月外部評価委員への評価依頼（平成32年度） ②4月（継続）講師へのコンテンツ作成依頼およびコンテンツのe-learning化 ③6月心理的応急処置（PFA）講習会開催 ④7月人道&緊急支援の国際基準トレーニング開催 ⑤9月プログラム評価委員会評価に関する運営委員会 ⑥9月災害リハビリテーション研修会開催 ⑦10月日本災害医学会PhDLS（災害薬事）コース開催 ⑧10月災害医療ロジスティクスシンポジウムin新潟 開催 ⑨11月災害歯科ロジスティクス研修会開催 ⑩12月災害薬事ロジスティクス研修会開催 ⑪1月避難所における食と栄養の研修会開催 ⑫2月災害医療通信技能研修会（ベーシックコース・アドバンスドコース）開催
34年度	<ul style="list-style-type: none"> ①4月外部評価委員への評価依頼（平成33年） ②4月（継続）講師へのコンテンツ作成依頼およびコンテンツのe-learning化 ③6月心理的応急処置（PFA）講習会開催 ④7月人道&緊急支援の国際基準トレーニング開催 ⑤9月プログラム評価委員会評価に関する運営委員会 ⑥9月災害リハビリテーション研修会開催 ⑦10月日本災害医学会PhDLS（災害薬事）コース開催 ⑧10月第二回災害医療ロジスティクスシンポジウムin新潟 開催 ⑨11月災害歯科ロジスティクス研修会開催 ⑩12月災害薬事ロジスティクス研修会開催 ⑪1月避難所における食と栄養の研修会開催 ⑫2月災害医療通信技能研修会（ベーシックコース・アドバンスドコース）開催 ⑬2月日本災害医学会BHELPコース開催
35年度 [財政支援 終了後]	<p>平成34年度外部評価委員による評価：評価内容・指摘より更に改善して、さらに発展的に事業を継続 履修証明プログラム「災害医療ロジスティクスコース」の継続 コンテンツのライブラリ（e-learning）での提供 認定資格制度と一致した研修会の開催継続</p>

教育プログラム・コースの概要

大学名等	新潟大学大学院医歯学総合研究科
教育プログラム・コース名	【履修証明プログラム】災害医療ロジスティクス専門家コース
対象者	医師・歯科医師・薬剤師・看護師・保健師・歯科衛生士・歯科技工士・理学療法士・作業療法士・精神保健福祉士・公認心理師・栄養士・行政職種ほか、災害医療に携わる関連職種
修業年限（期間）	2年
養成すべき人材像	災害時における急性期から慢性期・復興期までを視野に活動する医療チームの医療支援活動の実施と、その実施を可能とする専門性を活かしたロジスティクス（後方支援・業務調整）が実施でき、人的物的資源や通信環境の整備などを含めて組織横断的に活動でき、かつその人材が地域において災害ロジスティクス教育の指導的立場として普及に寄与できる「災害医療ロジスティクス専門家」を養成する。 また、上記に加えてサブスペシャリティーとして「心のケア」「生活不活発病」「口腔ケア」「看護・保健」「災害薬事」を選択し、履修生の専門職域に特化したロジスティクスについても履修し、組織横断的かつ専門性を有した災害医療ロジスティクス専門家を養成する。
修了要件・履修方法	①e-learningにより「共通科目」50時間以上、かつ「選択した専門（サブスペシャリティー）科目」20時間以上を受講し、それぞれのWeb試験に合格すること ②新潟大学医学部災害医療教育センター、もしくは全国で実施する災害医療ロジスティクスに関する研修会で、当センターが単位認定をすると定めた研修会を受講し、50時間以上受講すること。 上記①②のいずれも満たし、計120時間以上の履修を修了したものに対して、新潟大学より履修証明書（Certificate）を交付する
履修科目等	<共通科目> 「災害医療と救急医療」「災害初動対応」「避難所運営マニュアル」「行政対応の基本方針（急性期・慢性期・復興期）」「特殊災害のロジスティクス」「災害医療における関連法規」「災害医療通信の確立」「避難所アセスメント」「J-SPEEDの活用」「災害関連死亡と対策」「人道支援のスフィア基準」「心理的応急処置（PFA）」「災害医療コーディネート制度」「SCU活動とロジスティクス」ほか60時間 <専門科目> 「避難所における口腔ケア」「口腔ケアチームのマネジメント」「口腔ケア資材の種類と物流」「嚥下リハビリチームの要請と展開」「DPATのマネジメント」「心のケアチームの活動支援」「子供ひろばのマネジメント」「生活不活発病予防の対応」「JRATのマネジメント」「避難所におけるリハビリテーションのニーズ」「被災地病院薬剤師支援マネジメント」「急性期の薬剤流通の仕組み」「救護所における薬剤師の業務」「アレルギー食への対応」「必要衛生材料の把握と調達」「福祉避難所開設へのロジスティクス」ほか、各サブスペシャリティー別に20時間

<p>教育内容の特色等 (新規性・独創性)</p>	<p>1) 災害医療ロジスティクス(後方支援・業務調整)を学ぶ 従来より当センターでは「災害全時相・職種横断的な災害連携医療活動」について「なにをやるべきか」についての学習機会を提供してきた。しかし「なすべきこと」を実際に行うためには、一方でロジスティクスの知識や具体的なノウハウの専門家が必要である。このような背景から日本災害医学会において認定災害医療ロジスティクス専門家制度が開始されることとなった。本プログラムは従来日本では系統的な学習機会が提供されていなかった「災害医療ロジスティクス」を系統的に学習する初めてのプログラムであり、認定災害医療ロジスティクス専門家の認定要件を十分に担保し、かつ指導的役割を果たしうるレベルまで学習できる全国初のプログラムである。</p> <p>2) サブスペシャリティーで専門性を活かす 職種横断的な活動が可能となるための共通科目に加え、それぞれの専門職種ならではの災害医療ロジスティクスを学び、俯瞰的視点と専門性を兼ね備えた災害医療ロジスティクス専門家を育成するプログラムとなっている。認定災害医療ロジスティクス専門家制度においても職域別の専門性については言及していないが、実際災害においてはより職種専門的な業務調整能力が求められている。本プログラムでは、職種の専門性を活かした業務調整能力のある専門家育成にいち早く着手したプログラムである。</p> <p>3) ニーズに応じたロジスティクス専門家の育成 災害全時相に職種横断的なロジスティクス能力を身につけ、かつ職種に応じた専門性を有していたとしても、それが実際の現場のニーズに応じた活動に繋がらなければならない。本プログラムでは厚生労働省の指針に示されている災害関連死亡の重大な課題である「口腔ケア」「心のケア」「生活不活発病予防」という現場でのニーズから逆算してプログラムの組み立てを実施している。本プログラムの修了者が直ちに災害現場の重大な課題に専門性と俯瞰性を持ち合わせてロジスティクス活動に従事できるように工夫されている。</p> <p>4) 全国で働きながら学べる学習環境の提供 通学を要さないe-learningによる学習と学習履歴管理システムによる双方向性授業を実施。更に全国で開催される災害医療ロジスティクス関連研修も単位認定。新潟大学への通学を義務化せず、働きながら、地元で、子育てしながら、など男女を問わず様々なライフスタイルに合わせた履修が可能なプログラムに工夫されている。</p>																																																	
<p>指導体制</p>	<p>新潟大学医学部災害医療教育センター、新潟医療人育成センター、新潟大学大学院医歯学総合研究科新潟地域医療学講座災害医学・医療人育成部門の専任教員、あるいは新潟大学医歯学総合病院、新潟大学災害・復興科学研究教員、独立行政法人国立病院機構災害医療センター、日本赤十字社医療センター、国立健康・栄養研究所、新潟薬科大学、新潟医療福祉大学、神奈川歯科大学、新潟大学歯学部、新潟県福祉保健部ほか、全国の災害医療・災害医療ロジスティクスの専門家によるプログラム計画の立案から実際のe-learningコンテンツの作成にあたり、またセミナーの開催においては全国から各領域専門指導者を招聘して指導に当たる。</p>																																																	
<p>教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想</p>	<p>本コースは履修証明プログラムとして規定の要件を満たした修了者には履修証明書(Certificate)を発行し、職業能力証明としてのキャリア形成を支援する。修了者には本プログラムを含む新潟大学医学部災害医療教育センターの主催するセミナーなどにインストラクター、ファシリテーターとして継続的な災害医療教育への参画機会を提供。日本災害医学会認定災害医療ロジスティクス専門家制度の認定へ向けた指導を実施し、実災害においてもロジスティクス専門家として活躍する機会が得られるように支援する。</p>																																																	
<p>受入開始時期</p>	<p>平成31年10月</p>																																																	
<p>受入目標人数</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>H30年度</th> <th>H31年度</th> <th>H32年度</th> <th>H33年度</th> <th>H34年度</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>薬剤師</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>0</td> <td>8</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>50</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	H34年度	計	医師	0	1	1	1	1	4	歯科医師	0	1	1	1	1	4	薬剤師	0	2	3	3	3	11	看護師	0	3	4	4	4	15	その他	0	1	5	5	5	16	計	0	8	14	14	14	50
対象者	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	H34年度	計																																												
医師	0	1	1	1	1	4																																												
歯科医師	0	1	1	1	1	4																																												
薬剤師	0	2	3	3	3	11																																												
看護師	0	3	4	4	4	15																																												
その他	0	1	5	5	5	16																																												
計	0	8	14	14	14	50																																												

※教育プログラム・コースごとに作成して下さい。

教育プログラム・コースの概要

大学名等	新潟大学大学院医歯学総合研究科						
教育プログラム・コース名	【大学院医科学専攻修士課程】災害医学（災害ロジスティクス）						
対象者	4年制大学卒業で災害医療ロジスティクスをテーマとして研究し、将来的に災害医療領域の専門家として「研究」「教育」「職域における指導的立場」として携わる意思のあるもの。						
修業年限（期間）	2年						
養成すべき人材像	災害時における急性期から慢性期・復興期までを視野に活動する医療チームの医療支援活動の実施と、その実施を可能とする専門性を活かしたロジスティクス（後方支援・業務調整）に関連するテーマで研究活動を実施し、修了後は「心のケア」「生活不活発病」「口腔ケア」「看護・保健」「災害薬事」の分野に関する研究活動を自立的に継続し、教育機関において学問的背景をもった災害医療ロジスティクスの指導者となり得る人材を養成する。						
修了要件・履修方法	新潟大学大学院医歯学総合研究科医科学専攻（修士課程）の修了要件（次項目 合計30単位修得及び修士論文公開審査会の合格をもって修了）						
履修科目等	<ul style="list-style-type: none"> ・講義科目16単位（「人体の構造」「分子細胞医科学」「病気とその原因」「脳と心の医科学」「医学と社会」「感染と免疫」「医科学研究法」「臨床医学入門」）の履修 ・医科学総合演習4単位（論文購読・研究技術の修得） ・医科学研究特論（2年間の研究成果のまとめ 修士論文10単位） ・修士論文公開審査会 						
教育内容の特色等（新規性・独創性）	<ul style="list-style-type: none"> ・災害医療ロジスティクス（後方支援・業務調整）を研究する <p>社会医学系領域における研究活動は多くの場合長期の追跡研究を必要とし、2年間という修士課程の期間に馴染まないことと、災害医療においてはその調査フィールドが常時ないことから、前向きコホート研究の計画を立てにくいという課題がある。そのため、研究対象とらしくなく、学問として災害医療ロジスティクスに取り組む研究はほとんど見られない。新潟県においては、中越地震および中越沖地震の被災地があり、また東日本大震災からの避難移住者も多く、後ろ向きコホート研究のフィールドが確保されている。このことより、被災地大学でもある新潟大学ならではの災害医療ロジスティクスを学問研究する機会を提供でき、また研究成果は学問的にも貴重な資料となることが期待される。</p>						
指導体制	講義科目については、新潟大学大学院医歯学総合研究科担当教員により、また医科学総合演習、医科学研究特論については、新潟大学医学部災害医療教育センター、新潟大学大学院医歯学総合研究科新潟地域医療学講座災害医学・医療人育成部門の専任教員、新潟薬科大学教員（特別研究生登録により）、新潟大学災害・復興科学研究所教員らにより指導される。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	社会人大学院修士課程修了後は修士（医学）が授与される。修士課程修了後の進路はその後の博士課程大学院への進学、研究者・教官としての任用を目標とする場合と、現職における学問的背景を基盤とした指導的立場での勤務・人材育成への貢献と、専門性を活かしての実災害での活動が期待される。						
受入開始時期	平成31年4月						
受入目標人数	対象者	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	H34年度	計
	歯科医師	0	0	0	0	0	0
	薬剤師	0	0	0	0	0	0
	看護師	0	1	1	1	1	4
	その他	0	0	0	0	0	0
計	0	1	1	1	1	4	

※教育プログラム・コースごとに作成して下さい。

教育プログラム・コースの概要

大学名等	新潟大学大学院医歯学総合研究科						
教育プログラム・コース名	【資格認定コース】（インテンシブ）						
対象者	各資格認定コースの規定に準ずる						
修業年限（期間）	その都度						
養成すべき人材像	認定災害医療ロジスティクス専門家制度、各学会・職域団体の災害医療認定制度において必要とされる資格を取得し、実災害においてはその技術を実践でき、かつ平時においては各コースの運営、啓蒙、教育活動に資する人材。						
修了要件・履修方法	各資格認定コースの修了要件に準ずる。						
履修科目等	<ul style="list-style-type: none"> ・PhDLS（災害医療認定薬剤師研修会）プロバイダーコース、インストラクターコース ・BHELP（地域保健・福祉の災害対応標準化トレーニングコース）プロバイダーコース、インストラクターコース ・災害医療ロジスティクス研修会 ・災害時通信（EMIS）研修 ・その他 認定制度委員会と協議の上で順次追加 						
教育内容の特色等（新規性・独創性）	<p>・学会・職能団体における災害関連資格取得を支援する。</p> <p>日本災害医学会で開始される災害医療ロジスティクス専門家認定制度（認定ロジ、上級認定ロジ）の申請基準に示される予定（本申請書作成段階では未公開）の研修会（上記履修科目は一部のみ記載）を開催・受講機会を提供し、認定資格取得を支援する。</p> <p>その他、災害医療認定薬剤師制度の認定要件であるPhDLS、災害看護専門看護師制度の履修内容とも連動し、必要な研修会を認定制度の制度整備に併せて開催してゆく。これらは、各制度の設計担当委員が本プログラム委員として参画し、認定制度と一体化した資格認定コースを拡充してゆく。</p> <p>このことから、履修科目については順次拡充する予定となっている。</p>						
指導体制	各研修会の管理世話人、世話人、インストラクターを学内外より招聘して、学会等の正規認定コースとして開催する。既存の研修コース以外の新規コースに関しても全国より専門指導者を招聘し、学会等の制度に一致した内容が提供できる体制とする。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	プロバイダー取得者は、実災害において受講内容の実践、またインストラクター取得者については普及・教育に携わることが期待される。さらに、それぞれのプロバイダー、インストラクターを要件とする学会・職域団体の災害医療（ロジスティクス）認定制度の取得により、災害医療を支える専門家としての実践と教育普及に携わることが期待する。						
受入開始時期	平成30年10月						
受入目標人数	対象者	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	H34年度	計
	PhDLS	24	36	36	36	36	168
	BHELP	24	36	36	36	36	168
	災害ロジ研修	0	20	20	20	20	80
	EMIS	16	16	16	16	16	80
	その他	0	0	0	0	0	0
	計	40	72	72	72	72	328

※教育プログラム・コースごとに作成して下さい。

実践的災害医療ロジスティクス専門家の養成

—災害全時相・多職種連携を熟知し、かつ専門的業務調整力を備えた
災害医療ロジスティクス専門家養成カリキュラムの普及—

課題

「災害における医療の質の向上と組織間マネジメント」に精通する多職種災害医療人材教育が充実してきた（H26-H30文部科学省GP新潟大学事業他）。一方で東日本大震災、熊本地震など近年の経験を通じて人的・物的供給体制を確立するための**災害医療ロジスティクス（後方支援・業務調整）**の重要性が認識され、各職種で**ロジスティクス専門家認定制度**が模索・開始されつつある。しかし、災害医療ロジスティクス専門家を**認定制度と連携して組織横断的かつ系統的に養成する機会**は現在わが国では提供されていない。後方視的に過去の学習・経験に基づき認定する現行の認定制度に加え、前方視的に**専門家認定制度（キャリアパス）と連動し、かつ職種別の現行制度で対応できない職種横断的ロジスティクスも学べる質の高い標準化された災害医療ロジスティクス専門家養成モデルプログラムの確立・普及**が災害医療教育における喫緊の課題である。

連携・協力

新潟大学
医学部災害医療教育センター
災害・復興科学研究所
新潟医療人育成センター
大学院医歯学総合研究科
医歯学総合病院
歯学部・医学部保健学科
情報基盤センター

新潟県
福祉保健部
新潟県医師会
新潟薬科大学
新潟医療福祉大学
県リハビリテーション協議会
県薬剤師会

日本災害医学会
国立病院機構災害医療センター
兵庫県災害医療センター
日本DMAT事務局・福島復興支援室
日本赤十字社医療センター
国立健康・栄養研究所
神奈川歯科大学・神戸学院大学
上益城郡医師会 ほか

強力な実施体制

解決策

災害医療ロジスティクス専門家養成モデルプログラムを確立し全国に普及します

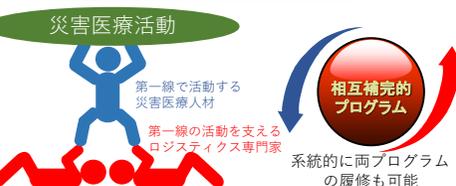
- 1) 災害医療ロジスティクス専門家育成の系統的学習プログラムを提供
- 2) e-learningシステムを利用した全国で学習しやすい環境の整備
- 3) 職種横断的災害医療ロジスティクスの基本学習+専門性「医師」「歯科医師」「看護師/保健師」「薬剤師」「OT/PT」「心理士」等専門性を活かした業務調整を学習
- 4) 履修証明プログラム+大学院修士課程でキャリア支援
- 5) 認定資格取得支援 学会・職域団体の災害医療ロジスティック認定制度との連携
- 6) プロバイダー・ライセンス取得にも対応 単独コンテンツ（セミナー・e-learning）の受講に対応

普及

- ① e-learningコンテンツのライブラリ配信
災害医療ロジスティクスのE-learningコンテンツと履修管理のシステムを全国の研修実施機関に提供
→全国の災害ロジスティクス関連研修の支援と共通の研修内容の普及
- ② 認定制度と連携したプログラム・セミナーの提供
災害医療ロジスティクス専門家の資格取得を目指す社会人のライフスタイルに合わせた受講形態を提供→全国へ向けたキャリア支援



課題解決型高度医療人材養成プログラム（H26-H30）採択事業
「震災～復興まで支援する災害医療人材の養成」
→災害全時相を途切れなく、かつ職種横断的に連携を可能とする。災害現場の第一線で活動できる災害医療人材の養成。
H31年度以降も自立的に事業継続



課題解決型高度医療人材養成プログラム（H30-H34）申請事業
「実践的災害医療ロジスティクス専門家の養成」
→災害現場の第一線で医療・保健・福祉を実施する活動を「後方支援・業務調整」し、円滑な支援の実施を可能とする専門家の養成。

参照資料 公募要領「申請対象となる事業」
：新たに実施する教育プログラム・コースを開発するもの（これまで実施していた教育プログラム・コースを発展的に改変・拡充する場合を含む）。

2年間
専門科目
共通科目
共通の技術と知識の学習+各職種独自の専門性を活かした学習を促進

口腔ケア (医師・歯科医師・歯科衛生士・OT/PT/ST)	生活不活発病 (医師・看護師・OT/PT)	心のケア (医師・看護師・公認心理士・精神保健福祉士)	災害薬事 (医師・薬剤師・行政職)	看護・保健 (医師・看護師・保健師・栄養士・行政職)	社会人大学院 修士課程 (災害医学・災害ロジスティクス) 対象：歯科医師・看護師・薬剤師ほか災害医療に関わる職種かつ災害医療ロジスティクス関連研究の志望者	プロバイダーコース (各種セミナー・コンテンツの受講) 対象：受講生は履修生、大学院生に限定しない。個別の講座受講、プロバイダー取得、認定制度ポイントのための受講など幅広く対応
災害医療ロジスティクス「共通科目」 (全職種共通で履修する科目)						
履修証明プログラム		e-Learning（共通科目50時間+専門科目20時間）+研修会等50時間		大学院	資格支援	

認定制度と連携

履修証明プログラム・大学院に加え、認定災害医療ロジスティクス制度、災害医療認定薬剤師制度、災害看護専門看護師、社会医学系専門医制度などの新規災害関連資格（制度）と連動・連携（ポイント付与・単位互換・認定要件など）した教育内容・コンテンツの提供により、幅広いキャリア支援を実現。それぞれの認定制度設計担当者・制度委員の参画による実施体制を確立。

国際協力と実績

JICA（国際協力機構）の災害医療教育関連プロジェクトに参画。ASEAN地域への災害医療教育へ寄与。本プログラム担当教官=JDR（国際緊急援助隊）医療班隊員養成研修指導責任者として豊富な海外派遣経験実績。中越地震・中越沖地震の経験+東日本大震災（宮古・石巻）熊本地震（益城町災害医療本部支援担当）など日本の震災における豊富なロジスティクス実経験。H26年より実施の文部科学省GP中間評価においてA評価（全26事業S評価1件 A評価3件 B評価20件 C評価2件）→十分な実施体制と協力体制の確立・豊富な実績と国内・海外への発信力。